



二葉幼稚園

2021年
園のたより

3月



3月の聖句

わたしは かならず あなたとともにいる

出エジプト記3章12節

3月のさんびか

きゅうこんのなかには

こどもさんびか改訂版 135

希望をもって



教材となる水仙を観ている時、花びらに規則性を発見しました。同じ花器に数本挿してある水仙を眺めていると、先程とは違う規則性のある花にも気づきました。園庭に咲く水仙は皆同じではなかったのです！思い込んで全体を見ていると、大切な個々の魅力を見落としてしまいがちですね。

2月末、3、2、1、半年の園生活から生まれた、文字通りの生活発表会は全員出席！各学年、個々の成長の喜びが感じられ、2020年度年間主題『ころろが満たされる』時となりました。

自由活動で手作り楽器が流行りだし、あれよという間に全員が取り組み、「小さな世界」を悦に入って演奏した年少組。様々な文化背景を持つ子ども達が出会い、言葉の壁を乗り越え歩んだ1年。♪世界中どこだって笑いあり涙あり～世界中誰だって微笑めば仲良しさ♪を体感しました！鈴、カスタネット、タンバリンの合奏「山の音楽家」では互いの音を聴き合い、主張するだけでなく待つ楽しみも覚えました。歌「やまびこごっこ」では、やまびこを疑似体験。「嬉しい」と言えば「嬉しい」「寂しい」と言えば「寂しい」と共感するって大切ですね。教育界で著名なルソーのエミールについて書かれた本(西研/NHK出版)に「子どもが感覚や感情や欲求を育てていくためには、「愛情」が、より正確に言えば「承認と応答の関係」が必須である(中略)「どうしたの？悲しいの？」「怒ったの？」(中略)というように、親が子どもの感情や欲求をきちんと承認し、それにふさわしく応答することで初めて子どもの感情や欲求は育ってくる」とありました。子ども達が人と関わる中で共感し、大切にされている実感を持ち、どこにいても自分らしく、自分自身を楽しめる瞬間がありますようにと願います。

年中になり、友達関係、興味や関心も広がった子ども達。様々な葛藤を通して自分と他者の思いの違いに気づき、他者の立場になって考えることが少しずつできるようになってきました。そんな姿と重なるような絵本「どうぞのいす」を題材に、目には見えない他者の思いに触れ、まだ見ぬ他者へ自らも感謝と喜びを分かち合おうとする劇遊びでした。輪廻のように喜びが循環していく様は、園でリボベジに挑戦するとご家庭にも広がったり、子ども達が家族と見つけた生き物や遊びなどを園に持ち寄り、紹介タイムでその喜びを分かち合ったりと、年中の1年の歩みとも重なるものでした。

例年、年長はメロディオン、合奏、歌に取り組みますがコロナ禍で吹く楽器の取り扱いが禁止。「運動会のパラバルーンの曲でチアしたら？」という子ども達からの提案で、1年取り組んだチアダンスを披露する運びとなりました。子ども達との相互作用を通して「こうしたら？」「こうがいい」と考えを伝え合い、皆で作りに上げていく過程は主体的な喜びに満ちています。難しそうと尻込みするのではなく誰もがやってみよう、きっとできると希望を持って様々な楽器やダンス、手話に取り組みました。

合奏「威風堂々」では皆堂々と、チア「Let's go チア」でご家族にエールを送り、手話付きの歌「離れていても」は、一人ずつが離れて自分の足でしっかりと立って歌っているからこそ、全ての人に力強い歌声や思いが届き、会場は静かだけど心が震えるような深い感動で包まれました。

来年は全園児の輝く姿に、皆様で感動の涙と鳴り止まぬ拍手を送る日が訪れますように。3月は旅立ちの時。神さまと一緒に希望をもって一歩、前進！言い尽くせぬ感謝をこめて【園長】